



広報 なかわだ

第 369号

7 月の予定

教会委員会	7 月 11 日 (日)
子どもミサ	7 月 25 日 (日)
聖マルタ祭日	7 月 29 日 (木)



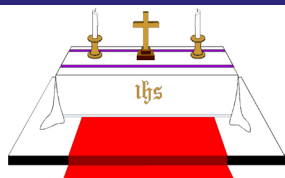
マルタとマリアの家のキリスト (フェルメール)

2010 年 7月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行

泉区中田北 1 丁目 9-1
Tel. (045) 803-6141
<http://www.paw.hi-ho.ne.jp/nakawadacatholic/>

平成 22 年 7 月 4 日



聖 マ ル タ

主任司祭 小林 陽一

エルサレムの都の近く、ベタニアに、マルタとマリアが住んでおりました。イエス様と弟子達は、エルサレムに行く度にマルタの家を訪ね、もてなしを受けておりました。

この日もイエス様と弟子達が見えましたので、マルタは食事づくりや部屋の掃除で忙しく立ち働いておりました。マリアは、イエス様の話を一言も聞き漏らすまいと、部屋に座って聞いておりました。マルタは仕事の手を休め、イエス様に近寄って、「主よ、私の姉妹が私ひとりにもてなしをさせておられますが、あなたは何ともお思いになりませんか。手伝うように言ってください」と言いました。主は答えになりました。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに心を配り、思い煩っている。必要なことは、ただ一つだけである。マリアはそのよい方を選んだ。それを彼女から取り上げてはならない。」

この話は、ここで終わっていますが、恐らくマリアは気が付いて、もてなしの仕事を手伝ったに違いありません。マルタは主に仕えることを考えて生き抜いた方でした。

マルタとマリアの家族をめぐる出来事が、ヨハネ福音書 11 章に記されています。「ある病人がいた。ラザロといい、マリアとその姉妹マルタの村ベタニアの人であった」(ヨハネ 11 章 1 節) ラザロは病気でした。イエス様のもとにラザロの病気のことが知らされましたが、イエス様はただちに見舞いに出かけることができませんでした。病気は悪くなる一方で、イエス様がマルタの家に行ったとき、既にラザロは亡くなって、墓に葬られてから 4 日が経っていました。マルタは「主よ、もしここに居て下さったら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。しかし、あなたが神にお願いすることは、何でも神はかなえて下さると、今でも私は知っております」と言いました。イエス様は「あなたの兄弟は復活する」と言われました。マルタが「終わりの日の復活のときに、復活することは存じております」と言うと、イエス様は、

『私は復活であり、命である。

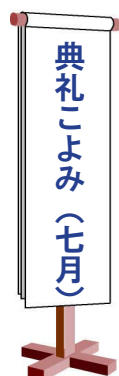
私を信じる者は、たとえ死んでも生きる。

生きていて私を信じる者はすべて、永遠に死ぬことはない。 このことを信じるか』

と仰せになりました。マルタは「はい、主よ。あなたがこの世に來られる筈の神の子メシアであると私は信じております」と答えました。イエス様はマルタと同じ願いをマリアからも聞き、涙を流され、墓にお出でになりました。人々が、塞いであった石を取りのけたあと、イエス様は御父に祈り、そして、「ラザロ、出てきなさい」と叫ばれました。死んでいたラザロは、手と足を布で縛られたまま出てきました。イエス様は「ほどいてやって、行かせなさい」と仰せになりました。

イエス様の手でよみがえったラザロは、マルタとマリアの家に帰り、平和な日々を取り戻したことでしょう。マルタは姉妹マリアと心をつにして、ラザロのよみがえりをイエス様に願いました。マルタは、後の教会によって、料理人、お手伝いの保護者となり、聖人に挙げられて、聖マルタと呼ばれています。

ひたむきにイエス様に頼み込むこの熱意に、私たちも倣いましょう。



日	曜		ミ サ ・ 勉 強 会	備 考
2	金		初金ミサ (10 時)	掃除 1 G
3	土	聖トマ使徒	主日ミサ (18 時)	
4	日	年間第 14 主日	祭日ミサ (10 時)	
10	土		主日ミサ (18 時)	掃除 2 G
11	日	年間第 15 主日	主日ミサ (9 時)	
17	土			掃除 3 G
18	日	年間第 16 主日	主日ミサ (9 時)	
24	土			掃除 4 G
25	日	年間第 17 主日	子どもと共に捧げるミサ (9 時)	
29	木	聖マルタ祭日	祭日ミサ (10 時)	

宮内毅神父様をお迎えして初ミサ(5月23日)

4月29日に司祭叙階された宮内毅神父様をお迎えして、待望の初ミサが捧げられました。

宮内神父様は、神学生の頃より何度も中和田に來られて要理学校をご指導頂くなど、たいへんお世話になって來ました。

私たち信徒一同は、宮内神父様をお迎えして初ミサに与れたことを、心より嬉しく思います。

宮内神父様、益々お元気にご活躍下さいますように。中和田信徒一同、心よりお祈り申し上げます。



出エジプトと聖地巡礼の旅：(4) オリーブ山とシオンの丘

<聖書関連は赤字で記載しますので、興味のある方は「聖書」を参考にしてください>

下村 毅・昭子

① 主涙し給う教会

イエスキリストがエルサレムの運命を嘆き、その滅亡を預言した。現在の教会(⇒)の屋根は「その崩壊を預言した涙」を象っています。



現在の教会



主涙し給う教会よりエルサレムの街を望む。中央は黄金ドーム、左への城壁はエルサレム旧市街地

ルカの福音◆エルサレムのために嘆く 13:32 ~ 34

ルカの福音◆エルサレムに迎えらる 19:37 ~ 44

② ゲッセマネの園

イエスはローマ兵に捕らわれる前に、ゲッセマネに來て、岩陰で苦しみ嘆いて祈っていました。



③ 万国民の教会 (苦悩の教会)



ルカ福音◆オリーブ山で祈る 22:39 ~ 44 イエスは苦しみもだえ、いよいよ切に祈られた。・・・46

④ 主の祈り教会



廊下と礼拝堂には82ヶ国の陶板が掛けてあります

ルカ福音◆祈るときには 11:12『父よ、御名が崇められますように、御国が來ますように』～4

⑤ シオンの丘 「聖ペトロ鶏鳴教会」



大祭司カイアファ官邸跡で、地下の石牢にイエスは最後の一夜を留

置された。

現在も石牢がある(現在の下水のマンホールの様で出入り口は無い)。ロープで吊るされたのであろうイエスの逮捕後、身の安全の為「イエスを三度知らない」と言う、イエスが予言したように鶏が鳴いた。ルカ福音◆ペトロイエスを知らないと言う 22:54 ~ 61

⑥ マリア永眠教会



イエスが捕らわれる前に弟子達と最後の晩餐をした所。この晩餐が「ミサの原型」になっています。

ルカ福音◆主の晩餐 22:14 ~ 15 イエスは言われた。苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過越の食事をしたいと、わたしは切に願っていた。～20 イエスが刑死した50日後弟子たちに聖霊が降臨した場所。使徒言行録◆聖霊が降りる 2:1 ~ 6

⑦ 最後の晩餐の間



第19回湘南キリスト教セミナーに参加して

～「ミンダナオの子ども達とともに生きて」於 戸塚教会～

武田 幸子

松居 友さんのお話でした。松居さんは、1953年生まれで大学卒業後、福武書店に入社し10年後に退社し北海道千歳に移り住み、アイヌ文化や沖縄文化の宇宙観に関心を持ち、北海道生活10年後紆余曲折を経て、フィリピンミンダナオ島の孤児施設で生涯の目的を見出され現在に至っているそうです。

現在のミンダナオ島は、常時戦禍にさらされ爆撃の被害で親や兄弟を失った子ども達が多く残され、熱帯の気候で生活や医療に困難をきわめているのですが、子ども達も最初は元気が無い様子でも助け合って励ましあううちに明るく笑顔になっていく様子が映像をまじえて語られました。松井さんは、孤児施設で子ども達と寝食をともにし、子ども図書館を創ったりして活動されているそうです。

私が第一に感じたのは、共通の不幸は助け合いの精神を育てるのかなということです。私も団塊の世代の後半にいる者として、戦後の日本の貧しかった様子は知っています。今の日本は「衣食足って礼節を知る」から飽衣飽食の時代になってしまったのかなということです。生活の便利さ快適さを求めていくうちに、人間本来の情愛やお金では計れない価値を見失ってしまったように思います。それが、ミンダナオ島の子ども達にはあるように思います。日本の現在の問題である介護や少子化の解決の糸口もここらあたりにあるように思いました。

第二に大国の利害関係の都合でこの子ども達が孤児になったり貧しい生活を余儀なくされたりしているとしたら理不尽だだと思います。日本も例外で無く、日本の企業が現地でバナナの栽培を行い日本に運んでいますが、現地の住民にわたる利益は数パーセントであるとのこと。心が痛みました。



第三に松居さんの捨て身の献身的な活動に感心しました。様々な困難や命の危険にさらされての生活をよくも長い間継続されているなあという思いです。その結果現地住民に信頼され必要とされている姿に頭が下がりました。

私はこのお話を聞いて、自分に何ができるか考えてみました。戦争をやめさせることは私だけでは不可能なので少額ですが寄付をさせていただきました。今迄もこの様な子ども達がいることは知っていましたが、現実に具体的な映像で知る事ができたのは良かったです。松居さんや子ども達の無事を祈るのみです。ありがとうございました。

受洗おめでとうございます！

■ お名前： マナリリ 麻衣 リン ちゃん (0歳)

● 受洗日： 2010年5月30日

● 洗礼名： Anna (アナ)

● 住所： 横浜市泉区和泉町

(注) 個人情報保護の為、住所詳細等は表示していません



岩淵委員長の コラム



■ サロンの当番の件では、多くの方々に御協力を頂いております。心からお礼申し上げます。これからも宜しく願い致します。

■ 祭壇やイエズス様の御像を中心とする内陣のリニューアルについて1月の信徒大会で説明されました。その後ずいぶん時間もたちましたが、委員会や建物を考える会で検討を継続しております。横浜教区本部の古川神父様や教区典礼委員長の久我神父様のアドバイスも頂きました。久我神父様のご紹介下さった『ローマ・ミサ典礼書の総則』(最新版)には内陣、祭壇、キリスト像のついた十字架などについてあるべき姿が示されています。現在これに沿って、予算面も考慮しつつ、品位があり祭儀と礼拝の場にふさわしい聖堂にして行きたいと検討を重ねている段階です。

この検討の過程で両神父様からご紹介を頂いた、祭壇関係を長らく手がけて来られた大川昇さんとも相談を始めました。大川さんは、これまで40年間にわたり、

日本全国400カ所以上の教会や修道院の内陣や祭壇、御像、信徒席等を手がけて来られました。この経験と信仰と優れた芸術的才能をベースに、それぞれの教会の雰囲気に合わせて、祭壇や御像を提案され、木を材料に全て御自身で手作りされ、センスと気品に満ちた作品を責任を持って納入されるということに徹してこられました。教会の備品や御像の製作、彫像に無上の喜びを感じて活動していらっしゃいます。現在他の教会の祭壇周りを一式を制作中ですが、これが完成する7月末以降、中和田教会にお越し頂き、本格的にアドバイスを頂くことになりました。8月8日の午後に打ち合わせを予定しております。大変気さくな方で、色々な経験談をお聞きすることができるとと思います。御関心のある方は是非一緒に御参加頂ければ幸いです。

いずれにせよ、祭壇回りは大変重要な案件ですので、もう少し検討が進んだ段階で、臨時信徒大会を開き、皆様の御了解の元に進めたいと思いますので、宜しくお願い致します。

委員会だより

△6月13日(日) 10名出席▽

■小林神父のお話&課題提起

- (1) 横浜教区召命練成会(8月25日) @不二聖心女子学院、中和田教会からの参加者の参加費一名あたり五千円を教会財務で負担願いたい。また推薦者の参加勧奨に関して、宣教委員、一粒会委員に協力を願いたい。
- (2) 5月9日に女子パウロ会の書籍即売会が開催されたが、その後シスター寺司から「委託販売」の検討依頼あり。(委託販売のテストケースとしてスタートしたいという希望)
- ・受託する方向で回答済み。
- ・財務、典礼、総務で別途内容をよく詰めてから具体的な対応を決める。
- ・この際、教会図書管理も含めて総合的に考えていく。
- (3) 中和田教会の聖体奉仕者について
 - ・聖体奉仕者に関する、中和田内部の理解が十分とはいえない。
 - ・理解を深めるには、どうすればよいか提案を願いたい(小林神父)
 - ・典礼委員から……
 - ・聖体奉仕者の必要性については、今迄広報への説明掲載含めていろいろ説明して来た。
 - ・更なる深化については、教会委員会に諮る前に典礼グループで詰めさせて頂きたい。
- (4) 第5地区のヴィジョンへの小教区対応
 - ・本件は、既に昨年の12月22日に横浜教区宣教科牧評議会宛に報告されているが、そこに銘記されている「小教区内の3部門」設置に関する議論を深めたい。(小林神父)

《補注》中和田の対応方針としては、本年1月31日の信徒大会で『「祈る」伝える』証しする』の小教区内3部門設置は、それぞれ典礼、宣教、福祉の3グループの活動の次元を引き上げることと対応していく』という方向付けが合意され

れている。

(広報2月号掲載の信徒大会議事録参照)

- (5) 神父出張予定
 - ・横浜教区司祭大会で、8月25〜27日に出張
- (6) 「祈る」「伝える」「証しする」それぞれの力を育てるお話し
 - ・8月は教会委員会は夏休みだが、8月8日に有志でこのお話し合いをしたい。(小林神父)
 - ・その折に、地区部門との連携をどうやっていくかも考えたい。(委員長)
 - ・「教区長の時間」の読合せを例会で行っているヨゼフ会にも出席願いたい。また、その読合せには、是非女性信徒にも声をかけて頂きたい。(委員長)
- 報告・討議事項
 - (1) 庭の清掃(5月31日)
 - ・無事終了。皆さんのご協力に感謝
 - (2) 広町町内大掃除への対応(6月6日)
 - ・本件も無事終了。ご協力に感謝
 - (3) バザー委員会(6月6日)の報告
 - ・地区代表の武田さんより別資料で目的、分担、スケジュールについて説明、また以下の対応を決めた。
 - ・寄付先については、今まで通り福祉グループに検討頂く、
 - ・手作り品については、昨年のものがある今年も作業なし、作品のある人に声かけ、
 - (4) 7月度スケジュール確認(問題なし)
 - (5) 7月17日に開催される戸塚、原宿、中和田の三教会合同会議の確認(委員長)
 - ・他教会に聴きたいことを募集したい
 - ・最低限、小林神父、正副委員長で対応するが、出席可能な方は是非出席願いたい
 - (6) 「教区長の時間」に関するアンケート(教区)の件
 - ・委員長より第5地区への回答案を提示、コメントや意見を募る
 - (7) 祭壇まわり整備・改修の件
 - ・久我神父様から頂いた「ローマ・ミサ典礼書の総則(暫定版)」は内陣まわりの検討に於いて非常に重要な指針であり、典礼、宣教、福祉の各グループでは是非読合せをして頂きたい。(委員長)
 - ・中和田での検討経緯を踏まえ、十字架・内陣まわりについて(教区のアドバースに基づき)大川氏に6月22日に相談していく。そして、見積り、信徒への説明内容を明確化、臨時信徒大会の開催へと進めていく予定。(典礼委員)
 - ・信徒の皆さんへの説明では、『何でやるのか?』が最大のポイントと考える。(委員長)
 - (8) 子ども侍者の指導について
 - ・信徒の方の指摘があったが、指導を宣教委員にお願いする。「3回叱るより1回褒める」ことに留意して欲しい。(小林神父)
 - (9) セシリア会の件
 - ・宣教グループの新たな行動としてセシリア会をスタート。(広報6月号)
 - ・区民クリスマスについても、宣教グループで話し合った結果、今後とも応援していくことにした。(宣教委員)
 - ・宣教の主旨にも合致して大いに歓迎される行動と思う。他方、練習などで使う聖堂、オルガンなどの保全に万全の配慮をお願いする。(委員長)

■各グループ(特記事項のみ)

- (1) 営繕
 - ・全員掃除を月一回実施することについて掃除グループに検討依頼中。
- (2) 財務
 - ・5月度収支の特記事項としては、教区分担金の支出、及び教区の消費税、法人税の分担金支出
 - ・建設会計のシーリングに関し、『将来の為に繰越金を割り込まない』単年度の収入の範囲内の支出』を基本とした。

《課題》営繕等緊急事態対応の引当金

の考え方をどうするか?

- (3) 宣教
 - ・5月22日に戸塚教会で開催された湘南キリスト教セミナーは概ね120名程の参加者を得て無事に終了
 - ・要理学校の第5地区合同サマーキャンプ(あきる野)が計画されている。
 - ・7月24日に要理学校の夏期学校を行なう。テーマは「祈る」
 - ・中高生会の夏期合宿の計画を今年は何とかつづけていきたい。近隣3教会の合同イベントの企画もあり。
- (4) ヨゼフ会
 - ・鶴田代表幹事が、5月16日の例会の内容を別資料で報告。

■その他

- (1) 信徒名簿を作ること、および配布することの是非(注 完全保存版は、配布していないが既に在る)
 - ・この件については賛否両論があり、またそれぞれの小教区の特質があるので必ずしも他教会の例が参考にはならない。
 - ・名簿の運用に関する試案をつくってみたいので、議論して頂きたい。(委員長)
- (2) 中和田教会の防災体制
 - ・今年度の新体制が未整備、これを構築することと防災訓練の実施(9月?)の計画策定(担当は総務グループ)。現状火災発生で全ての重要情報紛失してしまう危険性があることも考慮し、災害対策を見直すべしとの課題提起もあった。
- (3) 信徒の皆さんの意見の吸い上げ
 - ・具体的な方策について、各グループやヨゼフ会では非議論して頂きたい。(委員長)

(次回は7月11日)



以上